

次号予告

特集 脳血管障害と補装具

脳血管障害者の杖と歩行……………国療東京病院 松本 栄子
脳卒中片麻痺の下肢装具と歩行……………大勝病院 内田 順一
脳血管障害者のアームスリングとスプリント

……………富山医科薬科大病院 田村 茂・他

脳血管障害者の車椅子……………神奈川リハビリセンター 村井 三義・他

とびら 患者の運、不運……………土田 精

講座 PT・OT のためのマイコン入門

6. 将来展望……………労災義肢センター 土屋 和夫

障害学概論 6. 社会的不利……………横浜市立大病院 大川 嗣雄

プロGRESS 老年期痴呆の薬物治療……………東京都老人総合研 柄澤 昭秀

PT・OT の挑戦 仙台で自助具相談にあたる……………拓杏園 花村 都氏

あんてな 老人保健法施行後、健康管理センターにおける

リハビリテーション活動……………戸田市立健康管理センター 飯島 昌夫

編集後記

「三人寄れば文殊の知恵」という諺は、ある意味で集団の本質をついている。一対一の二者関係と、三人以上の人間から成る集団の人間関係とは質的に異なるからである。しかし、この両者を意識的に使い分けることは大変むずかしい。

今回は集団作業療法を特集としてとり上げた。集団作業療法は、精神病院ではごく当り前の治療形態として頻繁に利用されている。二者関係を前提として行う個人作業療法よりも、歴史的にはずっと古いし、精神科の作業療法の代名詞にすらなっている。

読者もご存じの60年代後半から70年代前半の「作業療法使役論」旋風は、この伝統的な集団作業療法が果して治療なのか否かを問うたものである。したがって、わが国で作業療法のもつ集団という場を意識的な治療操作の手段として見直すようになったのは、この時期以降といってもさしつかえないであろう。

クラブ活動、集団生産活動、集団芸術制作活動は、いずれも長い歴史を持つ精神病院では頻繁に利用されている代表的な活動である。どのような活動を利用するにせよ、集団作業療法を治療ならしめるためには、職員そのものも集団としてのチームワークを実践していくことが不可欠である。中村氏の「小集団の心理的過程」は、職場や患者集団のダイナミックスを考えるのに参考にしていただきたい。増野氏の「心理劇」は、言語に弱いOTにも比較的に利用し易い集団活動として論じていただいた。

真冬日が連続100日以上という、松本測候所開所以来の寒い季節もようやく終りを告げた。いずれは春が来るという保証は待つ楽しみを与えてくれる。寒さを耐え易くしてくれる。病者や障害者の待つ楽しさは、一体何だろうか。ふとそんなことを考えさせられたこの頃である。

それではまた。 (富岡 詔子)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春
埼玉県障害者リハビリセンター所長

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一
東京大学教授整形外科

水 野 祥太郎
川崎リハビリ学院院長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
ペインリハビリテーションクリニック高島平
整形外科

大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター

寺 山 久美子
都心身障害者センター

富 岡 詔 子
信州大学医療技術短大

奈 良 勲
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秋
都養育院リハビリ部

<編集同人>

池 松 洋 子

伊 東 元

岩 崎 テル子

宇都宮 初 夫

金 誠 喜

鎌 倉 矩 子

木 村 信 子

菊 地 延 子

小 嶋 裕

斎 藤 みち子

鈴 木 明 子

高 橋 正 明

田 口 順 子

橋 元 隆

古 川 宏

松 沢 博

宮 崎 和 子

宮 前 珠 子

山 田 貞 雄

矢 谷 令 子

(担当 細田・西塚)